

第1回専門委員会②・③ 検討資料（学童期から青年期 及び 社会的支援を特に必要とするこども・子育てに関する施策）

現計画期間中の主な取組み

施策6 子どもの居場所や体験機会の充実

○様々な活動の場や体験機会を提供

- ・中央児童会館（あいくる）や科学館、青少年施設において体験機会等を提供
- ・アジア太平洋こども会議・イン福岡を実施し国際交流を支援
- ・わいわい広場の実施校数を拡大したほか、放課後児童クラブの施設を改善（わいわい広場 R4年度 143校で実施）※うち常設校140校

施策7 青少年の健全育成と自己形成支援

○様々な主体と連携し、子ども・若者の健全育成を支援

- ・家庭、学校、地域、関係機関等と連携し、非行防止活動や健全育成事業を推進
- ・若年層の薬物乱用問題に対する認識を高めるため、啓発イベントや街頭キャンペーンを実施

施策8 若者等の相談支援と居場所の充実

○相談・支援体制を充実

- ・若者総合相談センター（ユースサポートhub）を開設
- ・若者支援地域協議会及び若者支援団体ネットワークを設置
- ・中高生の居場所づくりを推進したほか、子ども・若者活躍の場プロジェクトを実施し、若者の立直りや就労を支援
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置を拡充

施策9 障がい児の支援(学童期以降)

○必要な支援や療育を受けられる環境づくり

- ・障がい児福祉サービスの利用者負担を軽減（未就学児は無料、学齢児は上限3,000円/月に軽減）
- ・発達障がい者支援センターの機能を強化
- ・自閉症・情緒障がい特別支援学級を増級、特別支援学校高等部を新設、学校生活支援員の配置を拡充

施策10 子ども家庭支援体制の充実

○相談支援のチャンネル増加と質の向上

- ・児童家庭支援センターを増設
- ・こどもタブレット相談を開始
- ・各区にこども家庭センターを設置し、児童福祉分野と母子保健分野の連携を強化

施策11 児童虐待防止対策と在宅支援の強化

○様々な困難に対しきめ細かな支援を実施

- ・こももティエを開設、ショートステイの受け皿を拡大
- ・アウトリーチ（訪問）型の専門相談、育児・家事支援、見守り支援を実施
- ・ヤングケアラーに対しコーディネーターによる支援やヘルパー派遣を実施

施策12 ひとり親家庭の支援

○自立支援を強化

- ・養育費確保支援事業を開始
- ・高等職業訓練促進給付金を拡充（対象資格の拡大、多子世帯への加算追加）
- ・ひとり親家庭情報ポータルサイトによる情報発信

施策13 子どもの貧困対策の推進

○既存のセーフティネットに加え、市独自の支援を実施

- ・子ども習い事応援事業を開始（R4年度利用割合21.6%）
- ・子ども食堂の助成を拡充したほか、開催場所等のマッチングや広報を支援

施策14 社会的養護体制の充実

○一人ひとりに寄り添った社会的養護体制づくり

- ・ケア単位の小規模化や里親委託を推進（R4年度末時点 里親委託率59.6%）
- ・児童心理治療施設を開設

施策15 子どもの権利擁護の推進

○子どもアドボカシーの推進

- ・社会的養護において子どもの権利サポート事業を実施（R4年度 面接274回）

○子どもの権利の啓発と尊重

- ・公民館や市民センターなどにおいて、子どもの人権に関する学習の場の提供や研修会、講演会などの啓発事業を実施
- ・日本語指導が必要な児童生徒が、いち早く日本の学校生活になじみ、日本語での学習に取り組めるようになることを目的として、日本語指導等のサポートを実施

第1回専門委員会②・③ 検討資料（学童期から青年期 及び 社会的支援を特に必要とするこども・子育てに関する施策）

現状と課題

○ 子育てにかかる不安や負担

- ・子育てを楽しんでいると感じる保護者の割合は増加し、つらいと感じる割合は減少
- ・一方、保護者、子どもが悩んでいることは、進学（受験）のことが最も多い

ニーズ調査

★子育てが楽しいと感じる割合（小学生保護者）
「大変楽しい」又は「どちらかといえば楽しい」
H30 89.3% → R5 93.9%
「とてもつらい」又は「どちらかといえばつらい」
H30 8.7% → R5 4.9%

【参考】市の子ども施策で満足している点（R5上位3つ）

① 安心して医療機関にかかれる体制の整備	41.9%
② 保育所が十分にある	18.9%
③ 子連れでも楽しめるイベントが充実	13.6%

★子育てで日頃悩んでいること（R5上位3つ）（※中高生等本人は、自らの悩みや心配ごと）

（小学生保護者）	（中高生等保護者）	（中高生等本人）
① 進学や就職のこと 23.4%	① 進学や受験、就職のこと 52.0%	① 受験や成績のこと 64.6%
② 子育てで出費がかさむこと 22.9%	② 子育てで出費がかさむこと 29.7%	② 自分の将来のこと 60.2%
③ 基本的な習慣が身につけていない 21.5%	③ 特にない 23.9%	③ 外見やスタイルのこと 29.6%

○ 充実してほしい子育て施策

- ・経済的負担の軽減を求める声が多い

ニーズ調査 ★充実してほしい子育て施策

（小学生保護者）	（中高生等保護者）
① 子育てにかかる費用負担の軽減 71.0%	① 子育てにかかる費用負担の軽減 73.4%
② 出かけやすく楽しめるイベント機会 26.4%	② 安心して医療機関にかかれる体制整備 25.3%
③ 企業への職場環境改善の働きかけ 15.5%	③ 子育てで疲れた時の休息サポート 17.5%

○ 地域の環境に対する多様なニーズ

- ・多様な活動の場や居場所に加え、道路環境の改善や防犯対策が求められている

ニーズ調査（すべてR5上位3つ）

（小学生保護者）	（中高生等本人）
★地域の子育て環境で不満なこと	★もっとあったらいいと思う場所
① 雨の日でも遊べる場所がない 40.8%	① 一人でものんびり過ごせる場所 46.0%
② 通学路が狭いなど道路環境が悪い 29.7%	② 友人とおしゃべりができる場所 42.2%
③ 通りが暗いなど子どもが犯罪にあわないか心配 21.5%	③ スポーツや読書など好きなことが自由にできる場所 35.8%

○ 困難を抱える子ども・若者へのアプローチ

- ・様々な困難を抱えながら声を上げられない子ども・若者へのアプローチが課題
- ・不登校児童生徒数やいじめ認知件数が全国的に増加傾向であり、子どもたちが抱える困難は多様化・複雑化

ニーズ調査

★普段から家にいるようになったきっかけ

・不登校（小学校・中学校・高校）	中高生等本人 45.8%	18～39歳の若者 12.1%
------------------	--------------	-----------------

★普段から家にいるようになったことについて、現在どこにも相談していないと答えた人の割合

	中高生等本人 54.2%	18～39歳の若者 58.6%
--	--------------	-----------------

○ 障がい児の就学や社会参加ニーズへの対応

- ・特別な支援が必要な児童生徒が増加するとともに、居住地域の学校への通学ニーズが高まっている
- ・社会的自立や就労に向けた相談・支援などの取り組みが求められている
- ・障がい児通所支援事業所が増加する中、個々の特性や状況に応じた質の高い療育の確保が求められている

○ 子育ての不安や悩みの早期把握・早期支援

- ・虐待相談対応件数が増加（R元年度 2,449件 → R4年度 3,057件）
- ・より身近で相談しやすい窓口を求める声がある
- ・支援を担う職員（えがお館、区こども家庭センターなど）の人材育成や人材確保が課題

ニーズ調査（乳幼児保護者）

★子育ての相談ができる身近な場所として立ち寄りやすいところ（R5上位3つ）

① 保育所、幼稚園 72.4%
② 子どもプラザ 24.9%
③ 公民館 21.6%

【参考】その他欄への記載が多かったもの

- ・ショッピングセンター等の商業施設
- ・小児科など医療機関
- ・SNSなどオンライン

○ 在宅支援の強化

- ・子どもショートステイの利用が増加し続けており、受け皿となる施設の体制整備や里親の拡大が必要（R元年度 2,719日 → R4年度 6,851日）
- ・訪問型サービスなど多様な支援ニーズに対応するため、担い手の拡大と質の向上が課題

○ ひとり親家庭の支援

- ・自立に向けた支援が引き続き求められている

ニーズ調査（乳幼児保護者のうち、ひとり親家庭の母親）

★現在の就労状況 フルタイム 57.9% パート等 24.1%
★パート等のうち、フルタイムへの転換を希望する割合 56.3%

ひとり親家庭実態調査（R3）

★平均世帯年収（税込み）
母子家庭 295万円 父子家庭 521万円

○ 子どもの貧困対策

- ・経済的支援に加え、生活、教育、就労など様々な支援が求められている

○ 社会的養護体制の充実

- ・様々なニーズに対応できるよう里親等の拡大を図るとともに、里親のリクルートから育成・養育中の支援を包括的に実施する必要がある
- ・ペアレントトレーニングや親子再統合支援等の家族支援の充実が求められている
- ・社会的養護経験者の自立支援の充実が求められている

○ 子どもの権利擁護の推進（意見表明支援等）

- ・児童養護施設等で実施している子どもの権利サポート事業について、対象を拡大するための仕組みや体制づくりが課題